

日 時：平成 27 年 10 月 6 日（火）18 時 30 分 ～20 時 5 分

場 所：柏木町コミュニティセンター

対象地区：柏木町・藤野

参加人数：16 名

■要望、質疑応答

内 容
<p>○マイナンバー制度について (市民からの要望・質問)</p> <p>10 月 1 日からマイナンバー制度が始まっているが、その内容を教えてほしい。</p> <p>(市の回答)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・マイナンバー制度は、市民サービスの向上を目的に導入されている。税や社会保障、年金、災害時の身分照会などに活用される予定である。また、当市でも独自にひとり親家庭等医療費支給事務や子ども医療費支給事務などにも利用したいと考えている。</li><li>・現時点では中々メリットが見えてこないが、11 月になると通知カードが届くので、ぜひ申し込みをしてほしい。</li></ul> <p>(市民からの要望・質問)</p> <p>マイナンバー制度の趣旨はすごく良いと思うが、過去にも年金機構から情報漏えいがあったように、セキュリティの部分が心配である。</p> <p>(市の回答)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・年金機構は情報漏えいはヒューマンエラーが大きな要因である。当市でもマイナンバー専用のサーバを用意し、職員に対しても研修をしっかりとやっていく。</li></ul>
<p>○健康センター裏の水害問題 (市民からの要望・質問)</p> <p>昨年から何らかの対策を講じると聞いていた。現在は、コンサルティング会社を入れて調査をしているとのことであったが、現時点での進捗状況を教えてほしい。</p> <p>また、健康センターの裏に側溝があるが、側溝の上を塞ぐように雑草が生えている。水害の原因にもなるため 10 日くらい前に土木課へ相談したが、現状のまま変わっていない。</p> <p>(市の回答)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・水害対策の進捗状況については、土木課が主担であるため、ここで明言することは難しいが、案としては二つあると思う。柏木町地区に流れ込む前に調整池などに貯める方法と大きい水路を入れて経路を変えてしまう方法になると考える。ただし、これもコンサルティング会社の調査結果報告を受けてからの判断となるため、もう少し時間をいただきたい。</li></ul>

- ・根本的な対策はできていない状況であるが、柏木町の水害に係る水門は 20 基あり、このうち 13 基は土地改良区で管理して水量の調整をしている。ただし、残りの 7 基は土地改良区で管理していないため、我々職員が水門の開放をしている状況である。この水門管理もある一定の効果ができていると考えている。
- ・側溝の上の雑草の草刈については、マイロードマイタウン事業を活用して対応してほしい。

○まちづくりについて

(市民からの要望・質問)

まちづくり懇談会で地域住民の声を聴くことはすごく良いと思うが、市民からの質問や要望を一つずつ回答していくのは非常に大変である。町会長や議員を通じて行えばいいのではないかと。市民も市に対して要望しているだけでは成長しない。自分たちができることは自分たちで行うべきだと考える。

(市の回答)

- ・まちづくり懇談会を開催する意図の一つとして「自分たちの地域は自分たちで考えていこう」という、市民意識の醸成を図ることを目的としている。
- ・町会長からの要望は、行政委員連絡会議において受けている。一町会 2 件までとしており、それでもすべての要望を受け入れるのは難しいが、市民の安全安心に関わる要望については、順番を付けて対応している。

(市民からの要望・質問)

今後、まちづくりを進めていくためには市民の意識の向上が重要である。そのためにはまず 3～4 町の町会をモデル地区に指定して実施してはどうか。

また、地域の住民が減ってきており、町会運営に農協や市役所の職員を当てにしたいという意見も聞くが、これに対してはどう思うか。

(市の回答)

- ・将来的にはいくつかの町会が集まって自分たちの地域を考えていく地域自治組織を作りたいと考えている。人口が減っていく中でこのような組織は重要であり、その前段階としてこのまちづくり懇談会を開催している部分もある。
- ・今年度モデル地区を作ることも考えたが、当市では町会としての意識が強いため、いくつかが集まって組織を作るのはなかなか難しい状況がある。ただし、将来的にはモデル地区などを作って進めていきたい。
- ・職員も地域に帰れば市民である。可能な限り地域の集会等に参加するよう以前から指示はしている。職員は、事務や会計処理には慣れているため、このような部分で活用していただければと思う。

○大浪バイパスへの信号機の設置について

(市民からの要望・質問)

町会の東側にバイパスがあり、そこを横断していつも畑や田んぼに行くが、交通量が多く道路を渡るのも命がけである。前に押しボタン式の信号機の設置を要望したが、町会の方へ通じる道を拡張する必要があると言われた。そこで30mくらいの部分は拡張したものの信号機は付いていない。やはり信号機の設置は難しいのか。信号機が難しいのであれば横断歩道のラインだけでもいいのだが。

(市の回答)

- ・信号機の設置は、警察の担当になるが非常に難しい。県内でも年間数件しか設置されていない。横断歩道のラインだけというのであれば可能性はあるかもしれない。とりあえず警察と公安委員会の方へ要望してみる。
- ・バイパスから町会への入り口については、対向車とすれ違えないということで市の方で農地等を買収し10mくらいは拡張した。ただし、信号機を設置するとなるともっと長い距離を拡張する必要がある。そうすると宅地などを含めた用地買収が必要になる。
- ・警察と公安委員会へ要望した結果については、後日町会長へ回答する。

○一人暮らし高齢者の安否確認について

(市民からの要望・質問)

他の市町村では、一人暮らし高齢者が、自分の名前や緊急時の連絡先、持病、かかりつけ医、飲み薬などの情報を書いた紙を赤い筒に封入し冷蔵庫に入れておくと、救急時に隊員が筒の中を確認して救命活動に役立てていると聞いたことがある。平川市でもこのような事業を実施してもらえないか。

(市の回答)

- ・当市では、一人暮らしの高齢者の方の安心のための事業として、福祉安心電話事業を実施している。これは、社会福祉協議会へ委託して実施しているが、緊急時に緊急ボタンを押すと24時間体制の受信センターにつながり、受信センターから連絡があった協力員が発信者宅に急行して適切な対応をとるといった事業である。当市では約100件設置されている。この他にも1グループ3人くらいのボランティアで一人暮らし高齢者を見守るほのぼの交流事業を実施しているほか、要援護者台帳も作成している。要援護者台帳は、一人暮らし高齢者の方の情報を本人からの了解を得たうえで登録し、災害時などの避難支援などに活用するものである。現在は約930人が登録している。
- ・今回意見のあった冷蔵庫内へ情報を収納しておく事業は実施していないが、今後も一人暮らしの高齢者は増加傾向にあるため、部内で検討してみたい。

(市民からの要望・質問)

一人暮らしの高齢者については、町会や老人クラブなどで本人と連絡を取り合いながらお互いに助け合うべきである。また、町会などでマップを作成して該当者を把握することも必要だと思う。

(市の回答)

- ・一人暮らし高齢者の対応については、今後の検討課題ではあるが、本人を最も理解している町会の中で対応できれば理想である。また、電力使用量の確認により本人の安否確認につなげる方法もあると聞いたことがある。いずれにしても今後も一人暮らし高齢者は増加していくと思うので、何らかの対策は必要になってくると考えている。

○平川市の文化活動に対する考え方について

(市民からの要望・質問)

藤崎町にあすか会館という施設があるが、立派な美術ギャラリーや照明設備も非常に整っている。先日ここで「郷土の煌めく作家 10 人展」が催されたが、この 10 人のうち 6 人が平川市出身や在住の人であった。この人たちに話を聞いたところ「平川市でも開催したいが会場がない」と言っていた。文化センターにもギャラリーはあるが、じっくり落ち着いて鑑賞するような場所ではないと思う。平川市の文化活動に対する考え方をお聞きしたい。

(市の回答)

- ・現在市内にはこのような常設展示会を開催するような会場はなく、新たに建設するのは難しい状況である。ただし、今後市役所の本庁舎が建て替えになった場合、尾上庁舎の利活用が求められており、ここを文化活動の拠点として位置づけるのも一つの方法である。
- ・平川市の文化活動が他市に比べて劣っているとは思っていない。人の心を育てていく文化活動は非常に重要だと考えている。

○原発事故の際の受け入れ態勢について

(市民からの要望・質問)

東通原発などで事故があった場合、弘前市の県武道館などでは避難者を受け入れることになっているが、平川市でも受け入れ態勢はできているのか。

(市の回答)

- ・県から避難者の受け入れについての具体的な話はないが、仮に原子力災害があった場合は、同じ県民として弘前や平川に拘らず受け入れないといけない。

○児童館の開館時間について

(市民からの要望・質問)

児童館の開館時間は午前 9 時からとなっており、時間前に行っても中に入ることができない。夏休み中は、開館時間まで子どもたちが外で遊んでいるが、冬休みだと寒くて外にはいられない。親が共稼ぎの場合は、9 時前に仕事へ行くため、子どもたちは家から歩いてきている。他市では大体午前 7 時 30 分くらいから受け入れているため、平川市でも職員を 2 交代制にするなどして開館時間を早めてほしい。

(市の回答)

- ・児童館は、社会福祉協議会で運営しているが、以前にも同じような要望があった。以前は社協職員の出勤時間の関係もあり、開館時間は変更しなかったと思う。
- ・基本的に児童館は、家庭で子どもの面倒を見ることができる世帯の子どもたちが、自由な時間に利用する施設であり、これにより開館時間が9時からになっていると思われる。
- ・児童館については、市が直接運営しているわけではないため、要望があったことは社会福祉協議会へ伝えておく。

○つがる農産物加工センターの活用方法について

(市民からの要望・質問)

文化センターの隣にある県の施設のつがる農産物加工センターを文化活動の拠点施設にはできないのか。

(市長)

- ・つがる農産物加工センターは、今年度中に県から取得する予定である。ここで農産物を加工し、販売までできる施設にしていきたい。農業の6次産業化の一助になればと考えている。
- ・農産物加工施設として利用することを前提で県から譲り受けるため、文化活動の拠点施設にするのは難しいと考える。